

先般、練馬以来の自衛隊協力者の古希の祝いに招かれて参加してきた。その際、かかる宴席で初めてであるが、宴に入る前に全員で「食作法五観」を唱和した。さて、その食作法五観とは、所謂五観の偈（ごかんのげ）のことである。本来、禅宗において食事の前に唱えられる偈文のことである。僧侶の食事作法のひとつだが、道徳的普遍性の高い文章であるため禅に限らず多くの分野で引用されている。五観文、食事五観文、食事訓とも。典拠は唐の南山大師道宣が著した『四分律行事鈔』。道元の著作『赴粥飯法』によって広く知られるようになった。

【偈（げ）文】

- 一には功の多少を計（はか）り彼（か）の来処（らいしよ）を量（はか）る。
- 二には己が徳行（とくぎょう）の全欠を〔と〕付（はか）つて供（く）に応（おう）ず。
- 三には心を防ぎ過（とが）を離るることは貪等（とんとう）を宗（しゅう）とす。
- 四には正に良薬を事とすることは形枯（ぎょうこ）を療（りょう）ぜんが為なり。
- 五には成道（じょうどう）の為の故に今此（いまこ）の食（じき）を受く。

（会場で頂戴した偈文とやや小異ではあるが、百科事典から引用）

【略訳】

- 一つ目には、この食事が調うまでの多くの人々の働きに思いをいたします。
- 二つ目には、この食事を頂くにあたって自分の行いが相応しいものであるかどうかを反省します。
- 三つ目には、心を正しく保ち過った行いを避けるために、貪りの心を持たないことを誓います。
- 四つ目には、この食事を、身体を養い力を得るための良薬として頂きます。
- 五つ目には、この食事を、仏様の教えを正しく成し遂げるために頂きます。

円卓の小生の隣が薬師寺の執事長であり、協力者に僧侶の方も居られるので、斯様な儀式が取り入れられたのであろうか。何れにしても、国連の統計によれば、世界では飢餓と栄養失調に直面している人々が、8億人にも上ると見積もられている一方、我が国では、飽食の時代と喧伝されて久しい。その様な今日の日本で、感謝の念を持って食事をするということが少なくなってきたようだ。巷間、子供達から食事前に手を合わせての『頂きます』や『ご馳走様』との言葉が聞かれなくなったとも言われる。

小生等が小さい頃は、『ご飯をこぼすと目がつぶれる』とも教えられ、感謝の気持ちの重要性を諭されたものだが、今時の小賢しい連中は自分のお金・才覚で食事するのに何故感謝せねばならぬとでも思っており、その様に子供達を躱けているのであろうか。

会場で頂いた文書に記載された「六法礼拝」を以下に記す。

東を向いて、お父さん、お母さん、ご先祖様

南を向いて、人生こしかた先生

西を向いて、夫妻子供兄弟姉妹

北を向いて、友達

下を向いて、仕事を手伝って下さる人々

謹みて六方を礼拝し奉る

喜びと感謝と敬意の心をもって頂きます